

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：日高地区
 - 2 事例報告学校名：平取町立紫雲古津小学校
 - 3 報告者職・氏名：校長 矢 野 渉
 - 4 キーワード：地域素材を生かした特色ある教育課程
-

1 はじめに

本校は、「紫雲古津」「去場」の二つの地域からなり、平取町の玄関口にあたる自然環境豊かな地域に位置している。もともとは、平取町の米どころとして知られた純農村地域であったが、水田の減反に伴い、花卉栽培・野菜のハウス栽培（トマト、ほうれんそう、きゅうりなど）や肉牛飼育など、多角経営を進める農家が増加してきた。特に「びらとりトマト」というブランドが確立された背景もあり、トマトの栽培を中心にした農家が増えている。また、近年新規就農による移住者家庭も増えている現状にある。

このように農業に従事している家庭も多いことから、学校の行事やPTA活動、環境整備などにも夫婦で参加する家庭が多く、夫婦協働による子育てが行われている。また、校区の2自治会も学校の教育活動に協力的であり、以前は学校と地域の合同の様々な行事も行われていた。こうしたことから、小規模校ではあるが、教育活動に積極的に保護者や地域の皆さんに関わっていただいているおかげで、学校運営も円滑に進めることができている。

児童数は、ピーク時で200名を数えたときもあるが、ここ数十年は、20～40名ほどで推移しており、複式学級を中心とした学級編成となっている。子どもたちは年齢に関係なく、仲良く過ごしており、6年生をリーダーとした縦割り班活動や委員会活動を行うことを通じて、自主性や協調性が育まれている。

2 地域素材・人材を生かした特色ある教育活動

(1) 地域素材を生かした教育活動～アイヌ文化学習

①背景

地元の文化や歴史について理解を深めるため、アイヌ文化活動アドバイザー、アイヌ文化保存会、平取町教育委員会アイヌ文化学習係の協力をいただいて、文化学習・体験学習に取り組んでいる。地域素材を活用し、楽しみながら学び、ふるさとへの愛着を深め、多民族・多文化の中でお互いを尊重し合える資質・能力を育むということがねらいの活動である。



②取組内容

本校では、アイヌ文化学習のテーマを、「植物繊維、穀物、歌踊り、文様、鮭、語り」の6つに分類し、1年に1テーマ、つまり、6年で1サイクル回る形で実施している。講師には、地元のアイヌ文化に関わる方たちの中からテーマに合う方を町教委から推薦していただき、全校一斉に指導を受けている。



この他にも、アイヌ文化保存会の方を講師にお招きし、春と秋に、全校で地元の山や二風谷ダムの周辺などを散策する「野草観察」を実施し、アイヌの方たちが自然とどのように関わってきたかを学ぶ機会も設定している。

(2) 地域人材を活かした教育活動～スキー学習・読み聞かせ

①背景

本校で年間2回、体育の授業の一環として行っているスキー学習の指導サポーターとして、また、週に一度実施している「朝の読み聞かせ」には、話者として、地域ボランティアの皆さんにお手伝いをお願いしている。

ボランティアとして取り組んでくださっているのは、本校の元保護者や地域サークルのみなさん。学校運営協議会という制度が形作られる前からの活動であり、地域人材を教育活動に活かしていく画期的な取組であった。



②取組内容

スキー学習については、3名の地域ボランティアの方に指導をお願いしている。

事前の教員との打合せでの指導内容交流、スキー学習前の教員研修などにも講師として参加していただくなど、単にスキー学習のサポートにはとどまらず、スキー指導の研修の機会としても活用させていただいている。



また、朝読書については、低学年と高学年の2ブロックに分かれて実施し、それぞれの発達段階に応じた様々な本の読み聞かせを行っている。親として、祖父母としての目線から選んだ本を読み聞かせてくれることもあり、多くの子どもたちが新鮮な気持ちで読み聞かせに耳を傾けている。

また、読み聞かせの時間を打合せや授業準備の時間として活用できるなど、教員の働き方改革にもつながる活動となっている。

3 おわりに

本校では、今回紹介した以外にも、これまで地域素材や地域人材を生かした教育活動、また、地域の活動と連携した教育活動に取り組んできた。こうした取組が地域との連携を進め、地域に根差した学校づくりにつながってきたと感じている。

しかし、3年に及ぶコロナ禍や働き方改革推進の関係から、これまでの教育活動を見直し、例えば、地域運動会は、学校単独での運動会に変わり、学校行事の一つとして携わってきた地域のお祭りは、今年度から地域のみ活動となるなど、地域と連携した活動が少しずつ失われつつある。こうしたことから、学校との距離を感じている地域の方々も少なくない。今後は、これまでの取組を見直しつつも、地域の皆さんがこれまで通り、学校や子どもたちに関心を抱き続けられるような、学校運営に取り組んでいく必要があると考えている。